

たがこれは失敗した。今後の問題として道場修了生とのつながり、両親とのつながり（檀家は三割）の問題がある。

これは、開設中三日間だけのものではなく、修了後は、布教実践の問題・未信徒への呼びかけの問題とかかわって対処しなくてはならないと模索している。アンケートにあらわれた好印象、感想文に示された決意などをどのように活かしていくべきであらうか。

以上、克明にすぎたきらいがあるが、あえて道場の歩みを点綴した。修養道場開設二度のささやかな体験を表示して大方のご注意、意見を賜り、かつはご参考の一助となれば幸甚である。

△ S 47・7・16 ▽

編 集

後 記

■『現代宗教研究』（所報第五号）は、今年度二回に分け、第五、第六号を発行する予定である。第五回中央教研は、布教カリキュラムの作成と公害問題の二テーマを中心に討議されるので、本号はこのための資料として検討される素材を中心に編集された。第三回、第四回教研会議の報告、並びに布教カリキュラム試案の二特集を行なったのもこの意味からである。

■第三回、第四回教研会議は、膨大なテープの量にわたり、汗に原稿用紙をぬらしながら、テープの再生を行なった。一字一句正確に再生することを期したが、録音の不備や紙数の関係で省略したり、割愛せざるをえなかった内容がかなりあったことをお許し願いたい。上原専禄先生のご講演も都合により残念ながら掲載することができなくなってしまった。このご講演は、雑誌『未来』に全文掲載されているので、一読をすすめることとしてご寛恕いただきたい。テープ再生にあたり、現宗研研究員の久住謙是、宮川一敬、外岡信昭、望月哲也各師が積極的に労苦を惜しまず努力されたことに謝意を表したい。

■布教カリキュラム試案の特集として、この面の權威である三田村竜全師の玉稿を頂戴した。また道場の開催を通じた経験報告を岡元鍊城師にお願ひした。幼児、少年少女に対する教化方法と内容が指摘されており、日蓮宗の児童教化の推進に寄与する論文と考える。

■巻頭言に述べておいた通りの編集姿勢で本誌を充実させるよう努力していきたい。なお、末尾になり恐縮ながら、『現代宗教研究』の題字を渡部公允宗務総長より頂戴したことを深く感謝したい。本誌が、多くの現場の教師、研究者によって一読、活用されることを切望すると同時に本誌へのご支援、ご協力をお願いしたい。

（石川 康明 記）